

資料3

しろい市民まちづくりサポートセンター 事業経過

令和3年上期

機能 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
拠点	----- 団体登録更新 ----->		近隣センター調査(訪問は見合わせ)		施設利用受付システム一部改修	8月から多目的室の予約受付を再開(選挙用押さえを解除)
情報収集・発信		助成金情報を収集、団体向けに整理～まちサポ入り口に掲出・HP掲載・団体にお勧めメールなど まちサポ通信 5/15	まちサポ通信 7/15 ・団体の情報を拡大 団体紹介動画追加募集 ～ 随時撮影してホームページにアップ 3団体増えて16団体に 動画の長さ制限を1分から10分に拡大			まちサポ通信 9/15
	-----		----- フェイスブック 4～5回/月 -----		-----	-----
相談	8件	4件	5件	6件	5件	2件
資源掘起し・提供				緑の守り人養成講座 9/11～12/19 5回シリーズ 8/15～募集したが応募1名で中止		
交流・コーディネート			まちサポ通信座談会 6/12 → 7月号 6/14 → 9月号			→ オンラインサロン 9/12
まちサポひろば	懇談会 4/21			企画委員会 7/15	作業部会 8/27	グループ会議 9/29、30
育成	主催者向け Zoom講座 4/24	-----				
調査・研究				団体アンケート、市民アンケート参考資料入手 ～ 設計		

事業名	Zoom オンラインミーティング主催者向け講座
機能	拠点 情報収集・発信 相談 資源の掘り起こし・提供 交流・コーディネート 育成 調査・研究
目的	市民活動団体が、オンラインミーティング (Zoom) の主催方法とその活用法を知る。
1. 事業概要	日時 令和3年4月24日(土) 10時～12時 参加者合計 26名 対象 市民活動団体、地域のサロン運営者・自治会・PTA 会場 Zoom によるオンライン開催 (ネット環境設営:まちサポ会議室1・2) 講師 まちサポ市民コーディネーター 駒沢里美 内容 1. ZOOM ミーティングの作成・招待・開始方法 2. ミーティングに使える便利な機能 3. 快適なオンラインミーティングのための心構え 4. 質疑応答
事業風景	講座参加者の写真  ミーティングホストになる際に必要な操作方法や Zoom の機能活用のレクチャーを実施。ブレイクアウトルーム体験ではグループに分かれて、自己紹介をしてもらった。
成果	アンケート結果より(26人中18名回答) ・ミーティング主催方法を理解できた・大体理解できた・・・94.5% ・今後、自団体に Zoom を活用しようと思った・・・72.2% 記述意見・要望 「画面共有の操作方法について詳しく知りたい、実際にやってみたい」「講座部分が長く、集中力が持たない。参加者同士の会話に重きを置いた企画を希望」など
今後の課題	自団体の会員にオンライン環境や必要なスキルを持つ人が少なく、団体に活用が進まないという声があった。また、今度も Zoom 活用法を学ぶ講座を希望する人が7割。オンライン利用者の底上げとレベルアップのため、引き続き継続的に体験講座や参加者のコミュニケーションに重きをおいた交流の場を作っていくことが重要である。

事業名	まちサポオンラインサロン Vol.1 トークテーマ「高齢者の共助」
機能	拠点 情報収集・発信 相談 資源の掘り起こし・提供 交流・コーディネート 育成 調査・研究
目的	1. オンラインコミュニケーションのコツを学び、実践する。 2. 同じ関心を持つ団体・市民同士の意見交換・交流をすることで、活動への意欲を高める
2. 事業概要	 日時 令和3年9月12日(日)10時～11時30分 参加者 7名 対象 地域で助け合い活動をしている人、関心がある人 会場 Zoom によるオンライン開催(:まちサポ会議室1) 【内容】1. ウォーミングアップ: パフォーマンスゲスト 高橋富久美さん(介護予防推進ジョイジョイの会) 2. ゲストスピーカーからの話題提供「高齢者の共助」 寄本邦義さん(ちょっとした困り事) 3. みんなでしゃべろう！
事業風景	サービス提供の課題 これまで活動して感じていることは ・サービス提供者の人員確保 メンバーが増えてこない →対応エリア毎の人材確保が必要 ・ゴミ出しなど 同時間の定期的対応に限界が →2件を少し時間をずらして同日に処理 ・連絡網の構築 タイムリーに対応するには不可欠 →LINEとMailを併用して対応を協議 高齢者共助の目指すところ ・自治会単位での活動グループ作り 身近な人々での連携 近隣での助け合いが重要に ・他グループとの相互協力 近隣に生活を見せたくない人への配慮 パワー不足の補填 ・活動ハードルの低減 ゴミ出し時間の融通など 行政との調整も必須 ゲストスピーカー 寄本邦義さんの当日スライド 「ちょっとした困り事」活動から見えた課題と展望 高齢者共助の先進的な事例として、立上げ、運営方法について参加者の関心が高かった、
成果	アンケート結果より(7人中6名回答) ・今回のサロンの満足度・・・とても満足・満足 83% ・オンラインコミュニケーション・操作に慣れることができた・・・83% 地域で高齢者共助・サロン運営をしている団体の課題や、コロナ禍での活動の工夫を共有しあえた。少人数制にしたため、満足度は高い傾向にあったが、活動の意欲向上までは届かなかった。
今後の課題	今回は事例共有、感想共有、情報交換までにとどまった。オンラインサロンでの話し合いをきっかけにして、団体活動が一步前進するためのコーディネート・意欲向上のための場づくりも必要に応じて検討していきたい。また、今後も毎月のトークテーマは登録団体や参加者から募集し、ニーズや潜在的な課題に合わせて交流の場を作っていく。